

3月14日に行ないました卒業証書授与式は、在校生は会場の関係から代表のみの参加となりましたので、在校生からの送辞、卒業生からの答辞を紹介させていただきます。

【送辞】

今年は例年になくたくさん雪が降ったせいでしょうか、いつもの年にもまして、春の訪れを待ち遠しく感じていましたが、ようやく暖かい日差しも差すようになり、春の気配が感じられるようになりました。

三年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心からお祝い申し上げます。

三年前、真新しい制服に身を包み、期待と不安を胸に歩いた通学路。その日から早三年が過ぎた今、思い出が様々な形で蘇ってきておられることと思います。私達も皆さんと過ごしたこの二年間のことが、懐かしく思い出されます。

中学校生活の中で、期待も不安も一番大きかったのは部活動でした。活動にはついていけるだろうか、先輩達は怖くないだろうか、などと、不安を抱えて部活動に飛び込んだ私達に、先輩達は優しくそして厳しく、部活動のあるべき姿を見せてくださいました。今、私達が先輩と呼ばれる立場に立ってはじめて、あの頃の、三年生の皆さんの思いや苦労が身にしみてわかります。皆さんと一緒に汗を流した部活動では数えきれない喜びや苦しみを経験しましたが、厳しい練習を積んだ後に得られる達成感などを共に味わうことも出来ました。

東宇治中学校の伝統を、何よりも強く重く感じる学校祭。あの取組こそ、皆さんの大きな力を一番感じた場面でした。体育の部で取り組んだソーラン節は、どのブロックのリーダーもとても熱心で、一生懸命に取り組みたいという意欲にあふれていました。また、むかで競争に取り組む皆さんのかけ声や気迫に、クラス全員の心がひとつになっているのを感じました。結果発表では、金賞発表のその瞬間に、みんなで思わず歓喜の声をあげました。

合唱コンクールで、ホールいっぱい響いた迫力ある歌声や美しいハーモニー。そして、自信にあふれ、凜とした姿。何をとっても見事な先輩達には、最上級生の貫禄がありました。でも、あの美しい合唱が生まれるまでには、どの学年よりも早くから取り組み始め、毎日遅くまで熱心に練習していたみなさんの姿があったことを、私達は知っています。地道な努力を惜しまず、みんなで目標に向かっていく先輩達の姿は、とても輝いていました。

今日までの私達は、皆さんの後をただ歩いて行けば、それで安心でした。でも、明日からは、皆さんの後ろ姿を道しるべには出来ません。そのことが、とても心細く、不安に感じられます。けれども、皆さんから学んだひとつひとつの事をしっかりと胸に刻み、これからは、私達が中心となって、この東宇治中学校をより素晴らしい学校にしていけるように頑張っていきます。そして、来年の今頃は、私達も今日の先輩達に恥ずかしくない立派な姿で卒業できるよう、精一杯努力していきたいと思います。

卒業される三年生の皆さんにとって、今日は三年間という道のりのゴールですが、一方では、新しい生活へのスタートでもあります。どうか、いつまでも私達の先輩として輝き続けていてください。時には、辛い試練が行く手を遮るかもしれませんが、そんなときは、この東宇治中学校のみんなと創り上げた充実した日々のことを思い出して、また力強い一歩を踏み出してください。

それではいよいよお別れの時です。今後の皆さんのご活躍と輝かしい未来をお祈りして、私達在校生からの「贈る言葉」にさせていただきます。

平成十八年三月十四日

在校生代表 戸塚 弘貴 保志場 美菜子

【答辞】

春は空から、そして土から動く。耳をすませば湧き上がる春の息吹、春のささやき、春の歓喜の音が聞こえる。

今日、卒業証書とかけがえのないたくさん思い出を胸に私達はこの東宇治中学校を旅立ちます。三年間を振り返ると楽しかったこと、苦しかったこといろいろな思い出がよみがえります。入学式、期待と不安で胸がいっぱいだったあの瞬間から私達の中学校生活が始まりました。

何もかもが新鮮だった一年生。不安もあったけれど、それ以上に楽しさで毎日が充実していました。数々の行事や取組に「これが中学生なのだ」と実感しました。

二年生。体力的にも精神的にも大きく成長できた時期でした。行事や部活動にかける思いもより一層強くなりました。しかし、そういった活動では熱くなれる反面、日常生活ではいい加減な行動が目立つようになり、学年がバラバラになりそうなときもありました。そのような中で取組を始めた「三年生を送る会」。このままでは自分達が目指す最上級生にはなれないと気づき、リーダーの本気の訴えが、その後の学年を変えるきっかけとなりました。

練習が楽しくてしかたがなかった部活動。しかし、いくら頑張っても思い通りにいかないこともありました。そんな時、周りの仲間の励ましが何より力になりました。部活動を通して学んだ事、それは結果だけが全てではない、という事です。仲間とともにひとつの目標に向かって汗を流し、

涙した一瞬一瞬が私達にとってかけがえのないものです。

三年間最大の思い出は、最高学年として取り組んだ行事です。

沖縄での修学旅行。これは一生の思い出です。沖縄での三日間は現地では学べない貴重な体験の連続でした。青い空、白い雲、マリンスポーツの海、そして風になびくさとうきび畑。今でも目を閉じれば鮮やかによみがえります。特にマリンスポーツでは我を忘れて大はしゃぎし、大自然を存分に味わうことができました。しかしそんな沖縄にも忘れてはいけない過去がありました。沖縄戦。当時を無言で物語る轟壕。真っ暗闇の中で当時の人々の苦難を思い、祈りを捧げずにはいられませんでした。戦後六十年とはいえ、まだまだその爪痕は癒えることなく、むしろ深く私達の心に突き刺さりました。ひめゆりの塔に捧げた千羽鶴とともに私達は真の平和の実現を誓いあいました。

たくさんのお声が響いた学校祭。体育の部では「三年生一人一人がリーダーだ」という熱い気持ちを持って後輩たちを引っ張っていくことができました。どのブロックも本気で取り組み、その結果演技では全ブロックが金賞獲得という偉業を成し遂げました。それは競い合う中でお互いを高めたいことが出来たからです。また、全校生徒みんながトラックを囲み応援した色別対抗リレー。勝ち負けを越え、ブロックを越え、東宇治中学校全員の心がつながった感動的なフィナーレでした。まさしく、生徒会のテーマ通りさわやかな体育の部となりました。

そして合唱コンクール。「金賞」にかける思いがクラスの個性となって当日は気持ちのこもった歌を披露することが出来ました。と同時に、私達自身も歌の持つ素晴らしさに改めて気づきました。どのクラスも練習の段階から本気で取り組んだことは「心の金賞」に値するものです。この学校祭を通して私達は何倍も大きく成長しました。一人一人の心の中にクラスや学年を大切に想う気持ちが育ち、仲間を思いやれる学年集団になりました。

僕たちは中学校からA組に入りました。入る時はとても迷いました。小学校の時は嫌いだった勉強もA組でやっているうちに楽しくなり、やる気が出てきました。また、何事にも積極的に取り組めるようになり、自信ができました。行事や交流を通して人の思いやその人の立場に立って考えられるようになっていったり、動けるようにもなりました。中学校で僕たちは自分が成長したなぁと思うところがたくさんあります。

頑張りやでやさしい先輩が卒業し、最高学年になったとき、A組に五人の一年生が入ってきました。僕たちはリーダーとしてクラスを引っ張っていけるか、不安でいっぱいでした。中学校の生活や行事を何も知らない一年生に一つ一つ教えていくのは大変なことでした。けれども、気がつけばいつしかリーダーとして頼られる存在になっていました。

最後の合唱コンクールでは、絶対に成功させたいという思いと、この八人でオープニングにふさわしい合唱が作れるのかという不安で心がゆれました。練習を重ねてもなかなか真剣になれない一年生に、どうしたら僕たち三年生の気持ちが伝わるかと悩みました。そのとき、頑張りやだったA組の先輩達の顔が浮かんできたのです。

「このままではだめだ。もっとがんばろう。もっといい合唱にしたいんや。」

いつの間にか心の底から訴えている自分がいました。

その日からA組の合唱は変わりました。一、二年生は「三年生を裏切らない」を合い言葉に必死で僕たちについてきてくれました。A組の仲間のことは一生忘れません。

卒業後も、人との関わりを大切に、社会に出て働き自立できる力を十分つけられるよう、新しい学校で努力したいです。

そして進路。初めての自己決定。それは私達にとって予想以上に大きな壁でした。何から手をつけてよいかわからず、自分を見失いそうになった時もありました。そんな時、仲間からのメッセージカードを何度も何度も読み返し、力をもらいました。また、「この壁を乗り越えるには自分自身が頑張るしかない」ということに気づかされました。

仲間とは、私達にとってかけがえのないものです。楽しい時一緒に笑ってくれ、苦しい時励ましてくれる。悩んでいた時相談にのってくれ、しんどくなった時全てを受け止めてくれる。そんなすばらしい仲間がいたからこそ、私達の学校生活は充実していました。私達は自信を持って言えます。ここにいる仲間は私達の誇りです。この仲間との出会いは決して偶然ではなく、必然であったと今改めて思います。

後輩の皆さん。今度は君達が新しい東宇治中学校をつくっていく番です。素晴らしい活躍を楽しみにしています。

お世話になった先生方、いつも私達のことを考えてくださいました。未熟だった私達がこんなにまで成長できたのはご指導下さった先生方のおかげです。

そして、最後にお父さん、お母さん。私達が中学校生活を有意義に過ごせたのは家族の支えがあったからです。反抗ばかりしていた私達を見捨てず、最後まで見守ってくれたことに、今では感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。私達は新しい世界で頑張っていきます。どうかこれからも温かい目で見守っていて下さい。

いよいよ旅立ちの時です。たくさん感謝を忘れず、明日への希望を抱き、大きく大きくはばたいていきます。

平成十八年三月十四日

卒業生代表 河村 有芳 池田 享浩 中村 瑛